

第 1 回世田谷区本庁舎等整備基本構想検討委員会での主な意見

項目	主な意見
基本理念、視点	経済的な視点がない。
	予算を方針にすべき。区民への負担の議論は欠かせない。
地域行政	地域行政の議論なくして、本庁舎のあり方（規模、予算、配置等）を決めることはできない。
	地域の機能を充実すべき。災害対策の観点からも地域を充実すべき。結果、本庁舎のスリム化できるはずである。
	地域行政のあり方を明確に示すべき。それにより本庁舎の機能、あり方が決まる。
	総合支所との業務分担がわからない。
	総合支所の議論抜きには本庁舎の議論はできない。働き方の改革が必要である。
	総合支所は大事である。
	世田谷総合支所が三軒茶屋に移転した時に本庁舎に残る機能は何か。区民会館の役割は何か。この場所を中心に世田谷をどうしたいのかわからない。
	行政組織をどうすべきか。スタッフ制を改め、複数の仕事をすべき。
区民会館	本来は文化政策があって、区民会館の計画がなければいけない。
老朽化	定義が不明。コンクリート強度等のデータが必要である。
	1つに集約するのではなく、また、改築ありきでなく、どれだけ傷んでいるかを把握し、改修も視野に検討すべきである。
狭あい化	狭あい化が激しい。職員にとっても来庁者にとっても気持ちよいスペースに
フレキシビリティ	柔軟なサービス提供、平常時から災害時の柔軟な対応のためフレキシブルであることが大事である。
災害対策	災害に強い庁舎。本庁舎は司令塔。
ユニバーサル	協働と交流の拠点、来庁者と働く人、交通アクセス（バスターミナルをどうするか）、高層と低層の移動（垂直・水平）といった視点からユニバーサルを考えるべき。
オープンスペース	一部改築でも全部改築でもよいが、建物そのものでなく、オープンスペース（建物の建っていない広場等）に対する考えがもっと見える方針にすべき。延焼や倒壊で集まることができる、また、周辺の緑とのネットワークという点でも広場は重要である。
仮設用地	一般感覚として工期が7年半は長い。代替土地はないのか。
	仮設用地を用意すべき。業務を継続しながらの工事は難しい。
検討委員会運営	設計を進めるために決めておくべきこと。風景を継承するのか、高層にして効率的にするのかなど、規模や形態を議論するための検討材料（資料）が足りない。
	行政意思としてプライオリティを明確にし、決めるべきことを決めていくべき。